

京混

京都混声合唱団定期演奏会

1980年
5月28日水曜日
午後7時

京都会館第1ホール



主催—京都混声合唱団 共催—(財)京都会館サービスセンター 後援—京都市・京都府合唱連盟

ごあいさつ

風薫るさわやかな初夏の一夕を音楽に結ばれたご縁を得て、皆様をお迎えする機会に恵まれましたことを心から感謝申し上げます。

創立五十五年を迎え且つは“中国鑑真和上像展”の記念すべき歳にあたり、同志相俟って「鑑真和上東征賦」の作詞作曲の結実をみるに至り、ここに初演の日を迎えることになりました。たまたまこの日、日中友好の任を果たされた鑑真和上像のご帰国の日と符節を合わせましたことは奇縁と申さねばなりません。

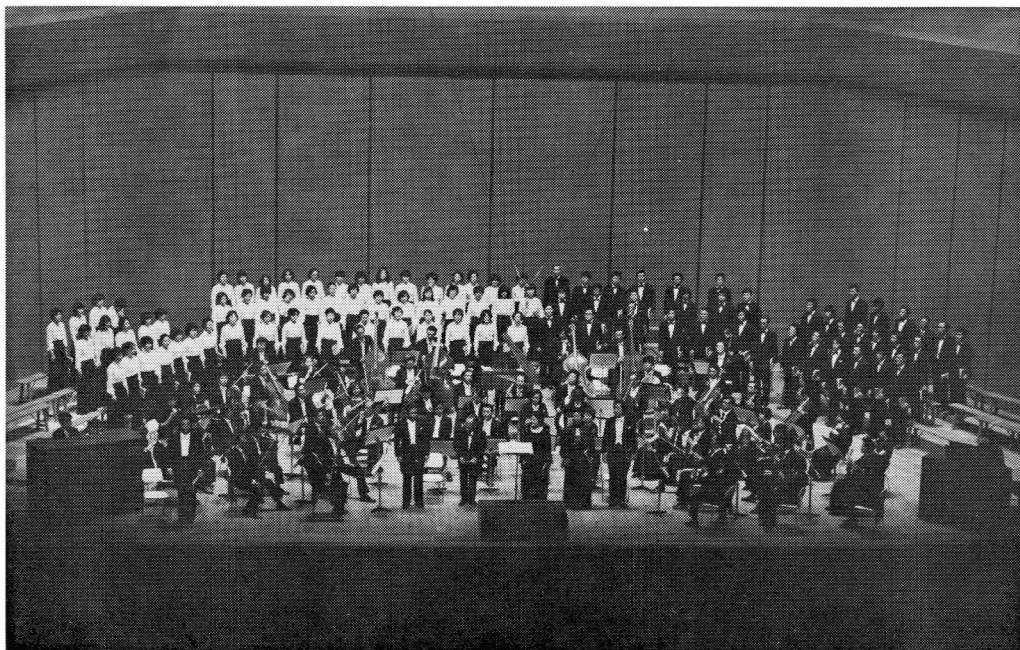
日頃合唱を通して情操薰化の上に寄与すべくささやかな願望を抱きながら練習を重ねて参りましたものの、理想とする成果にはなお程遠い懸念を禁じ得ません。ただたゆみなき真摯な努力の蓄積を発揮して今宵の最善を期したいと思っております。

今回もまた京都市交響楽団のご援助によって輝かしい華を加えていただきますことをこの上ない喜びとするものでございます。

何卒今後更に皆様のご支援ご叱声をいただき、よりよき前進へのお力添えを切にお願い致しますと共に、私たちのために折角のご来場を厚く御礼申し上げます。

1980年5月28日

京 都 混 声 合 唱 団



53年5月

1. 鑑真和上東征賦 ————— ●作詞/小島憲之 ●作曲/青山政雄 ●琵琶/一坊寺謙一

序 章
第一章 決意
第二章 飛雪
第三章 大海遭難
第四章 南の島
第五章 海東大和へ
終 章

2. LATIN MUSIC ————— ●編曲/青木 望

Blauer Himmel 碧空
La cumpalsita ラ・クンパルシータ
El reloj 時計
Estrellita エストレリータ
Begin the Beguine ビギン・ザ・ビギン

3. REQUIEM ————— ●作曲/M. Durufé ●メゾソプラノ/志村年子 ●バリトン/久岡 昇

Introït
Kyrie
Domine Jesu Christe
Sanctus
Pie Jesu
Agnus Dei
Lux æterna
Libera me
In Paradisum



●メゾ・ソプラノ 志村年子(しむらとしこ)

東京出身，桐朋学園大学音楽学部卒業。畑中更子，佐々木成子の両氏に師事。

1967年西独フランクフルト国立音楽大学に留学，ゲルトルーデ・ピッツィンガー，オットー・ブラウン各氏に師事，1970年，演奏家の国家試験（コンサートエグザメン）に合格し，「最優秀賞」を得て卒業。同年一時帰国してデビュー・リサイタルをひらく，1971年，二期会の「ホフマン物語」でオペラにデビュー。

1977年秋，「魔笛」の侍女など同年に於けるオペラ界での活躍に対して＜ウイナーワールド・オペラ賞＞を受賞。

コンサートの分野でも1978年10月に行なった「毎日ゾリステン」でソリストの地位を確固たるものにした。小沢征爾指揮の新日フィル「第九」，ドヴォルザークの「スタバト・マーテル」をはじめ，エルンスト・ヘフリガーとの協演による「マタイ受難曲」，「ヨハネ受難曲」などオラトリオ作品の優れた演奏を行なっている。二期会会員。

●バリトン 久岡昇(ひさおかのぼる)

国立音楽大学卒業。古田美代子に師事。

1966年，二期会研究生在籍中，みとめられて「タンホイザー」のヴォルフラムに抜擢され注目をあびた。1967年7月渡欧，ウィーン国立音楽大学で発声をラフフ，オペラをヴィット，歌曲をヴェルバの諸氏に師事。1970年6月卒業し発声の最優秀賞を獲得し9月に帰国。

その後はオペラでの活躍が目覚ましく，「フィガロの結婚」のフィガロ，「ファウスト」のヴァンティン，など幅ひろくレパートリーをひろげている。

1979年5月のサヴェリッシュ指揮の「魔笛」ではペーター・シュライヤーとの協演でパパゲーノを演じ絶賛された。

コンサートの分野では，秋山和慶氏，尾高忠明氏らの指揮でフォーレの「レクイエム」，ヴェルディの「レクイエム」，ブラームスの「ドイツ・レクイエム」などを歌っており，今後この分野での活躍も期待されている。二期会会員。



●指揮 青山政雄

1917年姫路に生まれ，後東京音楽学校に進み1939年卒業。山形師範学校に勤務。在任中応召により出征してビルマ方面に転戦。戦地では自然木や廃品などを工夫して楽器を造り，戦友を楽しませ自らも無聊を癒やす。

1947年復員して京都に居住し，上京中学校，市立堀川高校音楽コース専任などを経て，1952年京都市立音楽短期大学設立と共に助教授として招かれ，後，教授に昇任し，作曲指揮科を担当。また，京都混声合唱団設立当時の同声会先輩の推挙と要請により1952年より京混の指揮者となる。1963年大学並びに京混を辞して「わらび座」の音楽指導に当る。1967年再び帰洛して居を定め，九州大谷短期大学幼児教育科主任教授に就任。その間1970年より京混指揮者として復帰して今日に至る。

ほかに京都フィルハーモニー室内合奏団を育成し，あるいは失われゆく地方民謡の採譜保存に努め，合唱団「かがり」によってその普及実践に貢献する所大である。1973年度カラヤンコンクール第1位の小泉和裕は門下生の逸材である。

●編曲 青木望

1931年東京生まれ。ヴァイオリン，ヴィオラ，ピアノの奏者として，原孝太郎，藤山一郎その他のアンサンブルを遍歴後，1966年より作曲，編曲者として独立し，以後フリーの立場で，主としてレコード各社の作曲，編曲を担当，現在に至る。

●管弦楽 京都市交響楽団

昭和31年5月12日，全国ではじめての地方自治体交響楽団として誕生，年間10回の定期演奏会のほか，特別演奏会や地方演奏会を行なっている。京都市民のオーケストラとしてたしなまれております。

東征の賦によせて

小島憲之

唐鑑真過海大師については、今や何びともよく知る。その生誕地、中国本土への春深きころの「里帰り」、これに拍車をかける映画「天平の甕」の上映。塵の世への浸透は、暖くしてかつすさまじい。

このつたない作詞は、昭和52年ごろの原案である。時あたかもフランスの文化使節、女神像ミロのビーナスの来日、その礼使として渡仏したのは、大師の御像であった。目まぐるしい時世の流れは、すでに巴里の花の色香さえも人々を忘却させる。しかも今回の日中文化交流の架橋をなす、故郷への「里帰り」。その不屈の精神と海波遭難の辛苦を偲びつつ、若人たちも心から拍手を送る。

私の作詞は、かつて遊んだ巴里の町を「序章」とする。美しく着飾ったパリジェン、裾吹くさわやかな「パリ風」、まず軽やかに並木道に沿ってしらべは進むべきであろう。これに続いて、第一章「決意」、第二章「飛雪」、第三章「大海遭難」、第四章「南の島」、第五章「海東大和へ」へ。更に静黙たる遷化へと「終章」につながる。作詞のことばには、仏教語、漢語、上代語などを使用し、また、対句のことなど多少の試みも行なう。しかし私は「あや」の力にとぼしい。すべては、作曲演奏の美しさに耳を傾けるべきであろう。

作詞は作曲者の手に移るや否や、もはやその形を完全に失う。試案完了と共に、すべては青山政雄先生の掌中にゆだねられた。先生の「よみ」は深い。そこには、和上に対する肅然たる畏敬の念がそのしらべの中に駆けめぐる。

狭いわが草庭のひとつの桜、その花はただいま春の花に誇る。やがていたましくも残る春、人の心も若葉も静まるであろう。「若葉しておん目の雫ぬぐはばや」、鑑真和上忌は近づく。

みなさん

青山政雄

小島博士の鑑真和上東征賦の歌詞を、よくご覧下さい。そして、朗々とお詠みになってみて下さい。そして、ご自分の歩んでこられた道、是れから進んでいきたいと思っておられる道などについて、いろいろと考えてみて下さい。

鑑真さんは、お坊さんの3つのつとめ 1. 戒律を守ること。 2. 禅を行なうこと。 3. 民衆のためにすること。を完全に行われたのではないかと思います。1200年も前に、しかも遠い異国で!!特に最後の民衆のためにすることのために、日本民族の希いにこたえられたのではないかと思います。

鑑真和上の心の働きがあまりにも素晴らしく、私を浄らかな美しい心の世界へと、導いていきます。

小島博士のこの日本語の歌詞には、深い意味、こころが込められていて、私など計り知れないことばかりですが、何度も繰り返し読んだり感じたりして、鑑真さんやら、先生やら、京混の人々やらの心に共通してあるもの一人間に共通してある愛の心の触れ合いのリズムとでも言うのでしょうかーを発見しようと思つとめました。まだ何ともわからないでいる私の心の一つの焦点をつたない筆でつづりました。



仏蘭西料理とワインの店

グリル ママン

北区西賀茂鹿ノ下町90

12:00~3:00 5:00~10:00

水曜定休 493-2267

鑑真和上東征賦

今より1226年前（天平勝宝六年）中国僧鑑真和上は聖武天皇の手厚い招請に応じて、五度にわたる日本渡航失敗にも屈せず盲目老齡の身を以って仏教の戒律を日本に伝えるため、玄海の波涛を越えて六度目に初志を貫いて日本に到達した。先ず東大寺に住して昏迷の日本仏教の確立に努め、戒壇の建立などに献身すると共に唐の文化文物の伝来に貢献した。霊夢によってその示寂を察知した弟子たちは脱乾漆の尊像を造って聖者の面影を後世に遺した。天平期の国宝として今に唐招提寺御影堂に安置されている像がそれである。

かつてフランスからミロのビーナス像の来日展覧の返礼として和上像はパリにおける「唐招提寺展」に披露されたのであるが、本年4月19日からは和上の在住された揚州大明寺などの「中国鑑真和上像展」において公開された。

上代文学の泰斗小島憲之博士は和上への畏敬と思慕の念止み難く当時の用語、表現、情緒などを駆使して作詞され、これを指揮者青山政雄先生によって和洋古今の旋律と器楽を用いた彫心鏤骨の交声曲として完成されたものであり、鑑真和上が初めて音楽に主題された初演のものである。

先ずビーナス像と和上像との交歓賛称の朗唱に始まり、パリの初夏の風物詩的描写と和上像の壮厳美を描いた「序章」に入る。次に「第一章 決意」の“(1)やまと人の願ひ”では、昏迷の日本仏教を糺すべく戒律の師を迎えるべき使命を帯びて入唐した栄叡と普照の願いが歌われる。その“(2)答へ”として「すべて仏法のためである。なんの身命を惜しむことがあろう。私が行く」と凜然たる和上の決意が示される。しかし第一次渡航の計画は僧如海の誣告のため司直の手によって妨げられた。

「第二章 飛雪」第二次渡航は揚州を船出して楊子江河口に至るや12月下旬の激浪のために難破浸水して寒夜の海水に浸り飢えと寒気に耐えねばならぬ苦難のうちに挫折を余儀なくされた。第三次の渡航計画は日本僧栄叡と普照が和上をそそのかすと告訴され未然に阻止されることになった。第四次渡航は福州まで南下して乗船するためその途に降る雪に視野を奪われ、雪の嶮山難路を踏み越え苦闘の後、高弟靈祐の一途に師の身を思う短慮から三たび官憲の手に押えられ不首尾に終わる。

「第三章 大海遭難」(1)第五次の船出は順調に進んだ。港の落日もねぐらに帰る鳥の群れも中洲の草の色も見納めかもしれない。(2)しかし冬10月の大海は厳しかった。強風雷鳴怒涛に翻弄され漂泊の日が続く。(3)海面には海蛇が船を囲み、飛魚の大群に陽の光りも遮られる恐ろしさ。船は台湾の東を南流して熱帯圏に入り食糧飲料水の欠乏は死にまさる苦しみであった。ただ和上の面には超然自若たる仏者の静けさがあった。

「第四章 南の島」船は海南島に到着した。南国の花は美しく鳥の囀りも明るい。果実は珍しく口に甘く、南の島の日常は心身の痛みを癒やし辛苦の過去を忘れさせる豊かさがあった。やがて和上一行は中国本土に移り陸路揚州に向かって苦難の太行脚が続いた。普照と共に渡唐した栄叡は病いを得て異郷に骨を埋めた。



坂上味和



ひんやり さわやか

うちみ ねんざ 肩こり

三共シップ

包装/12枚・6枚入



和上には失明の悲運が訪れた。かくて第五次渡航も失敗に終わった。

「第五章 海東大和へ」第六次渡航は遣唐使の帰国の船に便乗を許された。四艘の船は夜の港を離れ星の光りを頼りに東進する。四日目の海上遠く一筋の髪の毛ほどに横たわる陸地一大和島見ゆ。沖縄一屋久島一薩摩半島秋目屋の浜一太宰府へ。

「終章」(1)和上は東大寺に住して天皇はじめ400余名に戒律を授け仏教弘布の道を開く。春まだ浅く残りの雪の中に和む草木の萌しのごとく和上によって仏の慈雨が広く深く満ち渡る。和上造宮の戒壇院を囲む松の緑も鮮やかに、唐禅院も春の霽こむる中に奥深く、かくて仏の救世の道は開かれ僧徒は戒律を持して衆世済度にいそむ世となった。和上は唐招提寺を創建して戒律の道場とされた。

(2)天平宝字七年(736)春の日に和上の健康はすぐれなかった。弟子の忍基はある夜講堂の梁の木の折れる夢をみて和上の死を悟った。5月6日和上は西方浄土の方に向かい結跏趺坐して波瀾と不屈の生涯を終えられた。時に行年76歳。その偉業は永遠の光りに満たされ、戒律厳修の戒壇には悠久の月の光りが輝いている。

松尾芭蕉は「笈の小文」の旅の道すがら唐招提寺に詣で和上の尊像を拝して

若葉して 御目の雫 ぬぐはばや

の句を捧げている。苦節12年盲目の身に波濤万里を凌いで日本の仏教護持に挺身された和上こそ菩薩の再来として讃仰の思い尽きず、せめて折柄の清き若葉をもって御目に滲む涙を拭い奉らん思い切なるものがある。

偉なるかな鑑真和上。嗚呼！

ラテン名曲集

世界の名曲を青木望氏の美しいアレンジと京響の素晴らしいアンサンブルで唱うという、リッチで楽しいシリーズも、ロシア民謡、シャンソンと続いて、今回は魅力的なラテン音楽です。

「銀河鉄道999」の音楽等で、目のまわる様な忙しさにもかかわらず、京都のお好きな、そしてアマチュアの心の理解者である青木さんは、今年も美しいアレンジを書いて下さいました。

数あるラテンの名曲の中からロマンティックなメロディーにあふれた5曲を集めました。

Blauer Himmel (碧空)

コンチネンタルタンゴの代表ともいうべき名曲。作者はヨゼフ・リクスナー。戦前にゲッツイ楽団の名演で大ヒットしたが、現在では、アルフレッド・ハウゼ楽団の演奏でおなじみである。晴れわたった碧空を思わせるメロディーは、我々に何か希望を与えてくれる様である。

La cumpalsita (ラ・クンパルシータ)

アルゼンチンタンゴの名曲というと真っ先に挙げなければならないのがこの曲である。作者ロドリゲスは

肉体疲労時の栄養補給・虚弱体質

ポポン錠

■薬局・薬店で十分に ご相談のうえ お求め下さい

シ
オ
ノ
ギ
製
薬

17才の時にこの曲を書いた。

仮装行列（コンパルサ）の様に過去の思い出が頭の中を通りすぎて行く。寄るべもない母を捨て情熱に狂い恋に盲いて愛する女のあとを追ったが、しかし今は運命の悲哀の中に捨て去られ不安にかられて、来たるべき死を待つばかり…………。

El reloj（時計）

ロベルト・カントラールが作ったボレロ。

時計よ時を刻まないでおくれ。私は気も狂いそうになるから。再び朝がくれば、彼女は永遠に去ってうだろう。二人の恋には今宵だけしか残されていないのだ…………。

Estrellita（エストレリータ「お星さま」）

もとは、メキシコのクラシックの作曲家ボンセが作った歌曲。ザビア・クガート楽団も、はじめテーマ曲に使っていた。

私の愛を知り私の悩みをごらんになっている遥かな空のお星さま。ここへ来て教えて下さい。あの人は少しでも私を愛してくれているのでしょうか。あの人の愛なしには生きてゆけない私なのですから…………。

Begin the Beguine（ビギン・ザ・ビギン）

ビギンは西インド諸島のアルティニーク島に起こったダンスリズムであるが、この曲はコールポーターの作ったミュージカル「ジュビリー」の主題曲である。

ビギンが始まると、熱帯の夜の生き生きとした思い出がよみがえる。星空の下に椰子の葉はそよぎ、私達は愛の誓いを交わすのだ…………。

REQUIEM

モーリス・デュルフレ（1902～）は20世紀の代表的なカソリックの宗教音楽家であり、またヨーロッパでは有数のオルガニストでもある。少年時代にはノートルダム大聖堂の聖歌隊員として宗教音楽に親しみ、長じてパリ音楽院でポール・デュカスに師事し、作曲家としての歩みを始めた。1940年以降はパリ音楽院の和声学の教授を勤めている。20世紀フランスの作曲界におけるデュルフレは、フォーレ・デュカス・ドビュッシー・ラベルに流れるフランスの伝統音楽の後継者として評価されている。作曲家としてのデュルフレは極めて寡作であり、レクイエムは唯一の大作という事ができるが、フランスでは、モーツァルト・ケルビーニ・ベルディ・ベルリオーズ・フォーレに続く「第6番目の名レクイエム」あるいは「フォーレ以降最高のレクイエム」と賞讃されている。

この曲は第2次大戦2年後の1947年に作曲された曲である。一説には当時デュルフレが父親を失った事が

伏見清酒

タ マ
玉

リ ウ
龍

川口酒造醸

京都市伏見区魚屋町573番地 TEL(075)611-1145・1146

作曲の動機であるといわれているが、一方自らの国が戦場となったあの悲惨な大戦から彼自身ものがれる事ができなかったであろうし、大戦の経験が彼の音楽に啓示を与えたであろう事、とりわけ大戦での死者に対する鎮魂の気持ちが込められているであろう事は想像に難くない。

この曲を語る時必ずフォーレの影響がとりざたされてきた。確かに劇的内容をもつ「Dies Irae (怒りの日)」をテキストから除き、「Libera me (解放せよ)」と「In Paradisum (天国にて)」を加えたテキストの選定および全体のテキストの構成が同一である点、その意図する所がベルディやベルリオーズのような劇的効果を除いて、冥想的・沈潜在的な祈りの境地に向けられている点、ソロの使い方や管弦楽法が類似している点でフォーレの影響は認められる。しかし、フォーレよりは現代的で鋭い感覚で作られており、内容表現ではフォーレより一層巾広く深いように思われる。

このレクイエムの特徴はグレゴリウス聖歌を大胆に素材に使った所にある。グレゴリウス聖歌は〈Introït〉〈Kyrie〉〈Sanctus〉〈In Paradisum〉では完全な元の形で用いられ、〈Agnus Dei〉〈Lux æterna〉〈Pie Jesu〉では変形された形で出現し、〈Domine Jesu Christe〉〈Libera me〉では断片的に用いられており、これによってこのレクイエムは流麗かつ透明な音楽の創造に成功しているように感じられる。デュルフレ自身グレゴリウス聖歌を素材に使った事に対し次のように語っている。「私のレクイエムは全面的にグレゴリウス聖歌の死者のためのミサ (La Messe des Morts) の上に導かれたものである。このテキストは私にとって絶対のものであったから、オーケストラの役割はもはやそれを支え、それを物語るといだけのものではない。また私はスタイルの上でもグレゴリウス聖歌の音律を近代的なリズムと調和させる事に意を用いた。……」

デュルフレの意図した通り、6世紀末にまとめられたグレゴリウス聖歌の真髓が1400年近い時間を越えて見事に表現されており、宗教・人種などを越えて人々に平和と安息と希望を与えてくれる作品という事ができる。

- | | |
|------------------------|--|
| 1. Introït | 主よ、永遠の安息を彼らに与え給え。そして永遠の光りで彼らを照らし給え。 |
| 2. Kyrie | 主よ憐み給え。キリストよ憐み給え。 |
| 3. Domine Jesu Christe | 栄光の王、主イエスよ。死せる信者の魂を地獄の刑罰と深淵より救い給え。 |
| 4. Sanctus | 聖なるかな。万軍の主なる神よ。天と地に汝の栄光は満ちたり。 |
| 5. Pie Jesu | 恵み深き主イエスよ。彼らに安息を与え給え。 |
| 6. Agnus Dei | 世の罪を除き給う神の子羊よ。彼等に永遠の安息を与え給え。 |
| 7. Lux æterna | 主よ。永遠の光りを彼等の上に照らし給え。 |
| 8. Libera me | 主よ、かの恐ろしき日に我れを永劫の死より解放せよ。 |
| 9. In Paradisum | 天使たちは汝を天国へ導き、殉教者達は汝を迎え入れ、聖なる都エルサレムへといざなわん。 |

ビヤ・ホール & レストラン

〈 営業時間 〉
午後4時～11時迄

- 年中………生ビール (アサヒ) ●清酒 (菊正宗)
●鉄板オイル焼 ●欧風一品料理 ●ピザパイ ●ポットフ鍋
●おでん ●湯どうふ ●各種鍋料理

ビヤケラー HB ニューキョート

京・木屋町四条上ル…… TEL 221-2514・2656

MEMBERS

京都混声合唱団

常任指揮者 青山政雄



団員募集

京都混声合唱団は55年の歴史を誇る京都でもっとも古い合唱団の一つです。あなたの燃えるような情熱で京混をさらに発展させて下さい。

合唱を愛するあなたの入団を心から歓迎します。来年にはハイドン—オラトリオ「四季」を演奏する予定です。

◎練習日……毎週金曜日 P.M. 7:00~9:15
(他に特別練習あり)

◎練習場所……河原町五条下ル西側 聖ヨハネ教会

常任指揮者／青山政雄

ピアニスト／阪田誠康

■連絡先 牛丸 紘一 TEL 451-8984
平松 利信 TEL 463-6894

眼鏡・光学品・補聴器



株式会社 **井上メガネ**

本店 京都市左京区丸太町通川端東入北側
TEL (075) 771-3718
藤井大丸店 京都市下京区四条寺町角
TEL (075) 221-8181
長岡京店 長岡2丁目1番の39-104
TEL (075) 922-3461

初夏の貴女の装いを彩るきもの

この夏はきものですごしませんか

もう一人の貴女と出会うかも？

登録 三琇ちりめん

きものを創る **しみず**

中・東洞院御池角京ビル6F (075) 255-2891~2

くずきり

鮠 著

東山区祇園町北側264
電話 561-1818(代表)

京銘菓

きねた

創業
天保二年

長久堂

京・河原町四条
電(075)221-1607

日本の伝統パッケージ製造販売

株式会社

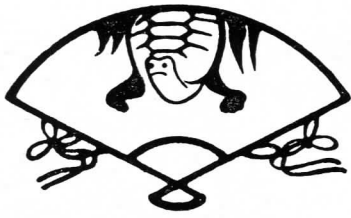
木下商店

京都市下京区麩屋町五条上ル
TEL 343-0626



スマート珈琲店

本店 中・寺町通三条上ル
TEL 221-8638
西店 右・太秦帷子ノ辻駅前
TEL 881-1624



廣末龜

京都・姉小路烏丸東入
電話 2 2 1 - 5 1 1 0

サントネージュワイン甲州は、甲州葡萄の持ち味を生かしたフレッシュなワインです。酸味が少なく、やや甘口で、口当りのさっぱりした、ライトタイプの白ワイン。つめたく冷やしてお召しあがりください。

品質は語る

サントネージュワイン

甲州
協和醗酵



標準小売価格 720ml 1,000円

遣唐使の
もたらした葡萄が、
やがて日本人のワイン、
甲州になった。